

木材を身近に！持続可能な体験学習 置賜産スギ材を使用したイス作りを实践

10月19日、愛真こども園の年長園児16名は、置賜「地材地住」ネットワーク主催の「置賜木」木工教室で、イス作りを学びました。

これは、森や自然の大切さを学び、森や木の文化を見つめ直す「やまがた木育」の一環として行っているもので、この日は、長井白鷹建設組合（松木文典組合長）の組合員の方々に講師としてお招き

し、イス作りに挑戦しました。講師のサポートを受けながら、一つ一つの木材を組み立て、見事に5脚のイスを完成させました。

園児たちは、木工を通して木のぬくもりに触れながら、木で物を作る楽しさを実感した様子で、いつも使っているイスを一から作り上げた達成感と、木材を身近に感じる機会となりました。



ネクタイを贈る小松代表（左）
受け取る佐藤団長（右）
佐藤町長（中央）



町のシンボルを胸に、消防活動へ邁進 紅花染めのネクタイを町消防団へ寄贈

11月6日、町内十五地区の小松織物工房（小松寛幸代表）より、町消防団（佐藤貴光団長）へ、紅花染めのネクタイが寄贈されました。

贈呈式では、小松代表より「今後の消防活動に邁進してほしい」とあいさつ。佐藤団長は「新たな気持ちで身が引き締まる思い。大切に使用し次世代へ引き継いでいく」と感謝し、佐藤町長は「町のシンボルを使用して、素晴らしい逸品を製作いただいた。自信を持って消防活動に取り組んで欲しい」と激励しました。

生産量日本一を誇る町内産の紅花で染色された生糸を使用し、深みのある赤一色に仕上げられたネクタイは、副分団長以上の20人分が用意されました。

文化・スポーツ活動において優秀な成績を収めた全国大会への出場を果たされた方々に、町より激励金を交付しています。10月に交付させていたいただいた成績優秀者の方で、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

全国大会出場の栄光をたたえて 令和5年度白鷹町成績優秀者激励金の交付

文化・スポーツ活動において優秀な成績を収めた全国大会への出場を果たされた方々に、町より激励金を交付しています。10月に交付させていたいただいた成績優秀者の方で、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

上段：氏名（所属）
下段：大会名

・阿部潤平（荒砥小学校5年）
第47回全国道場少年剣道選手権大会

・後藤理久（九里学園高等学校3年）
特別国民体育大会燃ゆる感動かごしま国体
（300㍓障害・4×400㍓リレー）

激励金を受け取る
阿部さん（右）・後藤さん（左）



地域林業復興に向けた架け橋として 2回目となる記念植樹を実施

10月14日に鮎貝小学校近くの鮎貝教育の森にて「デロイトトーマツグループ Ethicsの森 記念植樹」が開催されました。

当日は爽やかな秋晴れのもと、地元小学生やデロイトトーマツグループ社員、町内関係者約70名が参加し、スキー場として使用されていた斜面15㍍に、アカマツの苗木約200本が植えられました。町ではこれまで、緑の循環システム構築を実践し、森林・林業・木材産業の



活性化を図ってきました。

本植樹は、この取り組みに共感されたデロイトトーマツグループ様より植林のお話をいただき、昨年に続き開催されました。参加した児童からは、

「立派な木に育って欲しい」などの声がかげられました。



白鷹町環境フェア スポGOMI白鷹大会&アトラクション・特別講演を開催



「ごみ拾いはスポーツだ!!」の掛け声の後、スポGOMIにチャレンジしました

10月1日、白鷹町中央公民館を会場に「白鷹町環境フェア」が開催されました。スポGOMI白鷹大会では、3歳から70代まで15チーム約70名が参加し、荒砥地区内を会場にして、一定時間内に拾ったごみの種類と量を競い合いました。老若男女が楽しみながら環境美化に汗を流しました。その後のアトラクションおよび特別講演では、国際ボランティア学生協会（イビュウサ）所属の東北公益文科大学生による庄内地域でのクリーンアップ活動の発表と、日本キリバス協会のケンタロ・オノ氏による講演が行われました。

地域農業の振興・発展のため 農業農村振興施策に関する意見書を提出

10月31日に白鷹町農業委員会（小林孝次会長）より、町に対し「令和6年度白鷹町農業農村振興施策に関する意見書」が提出されました。

国際情勢の著しい変化等による農業用資材・飼料・燃料等の価格高騰対策や新規就農者の確保と

体制づくりに対する要望や、水田活用の直接支払交付金による万全な支援と要件の緩和についての働きかけを求める要望、また近年急激な増加をみせる有害鳥獣対策支援などの内容が盛り込まれています。



小林会長（中央）より意見書を受け取る